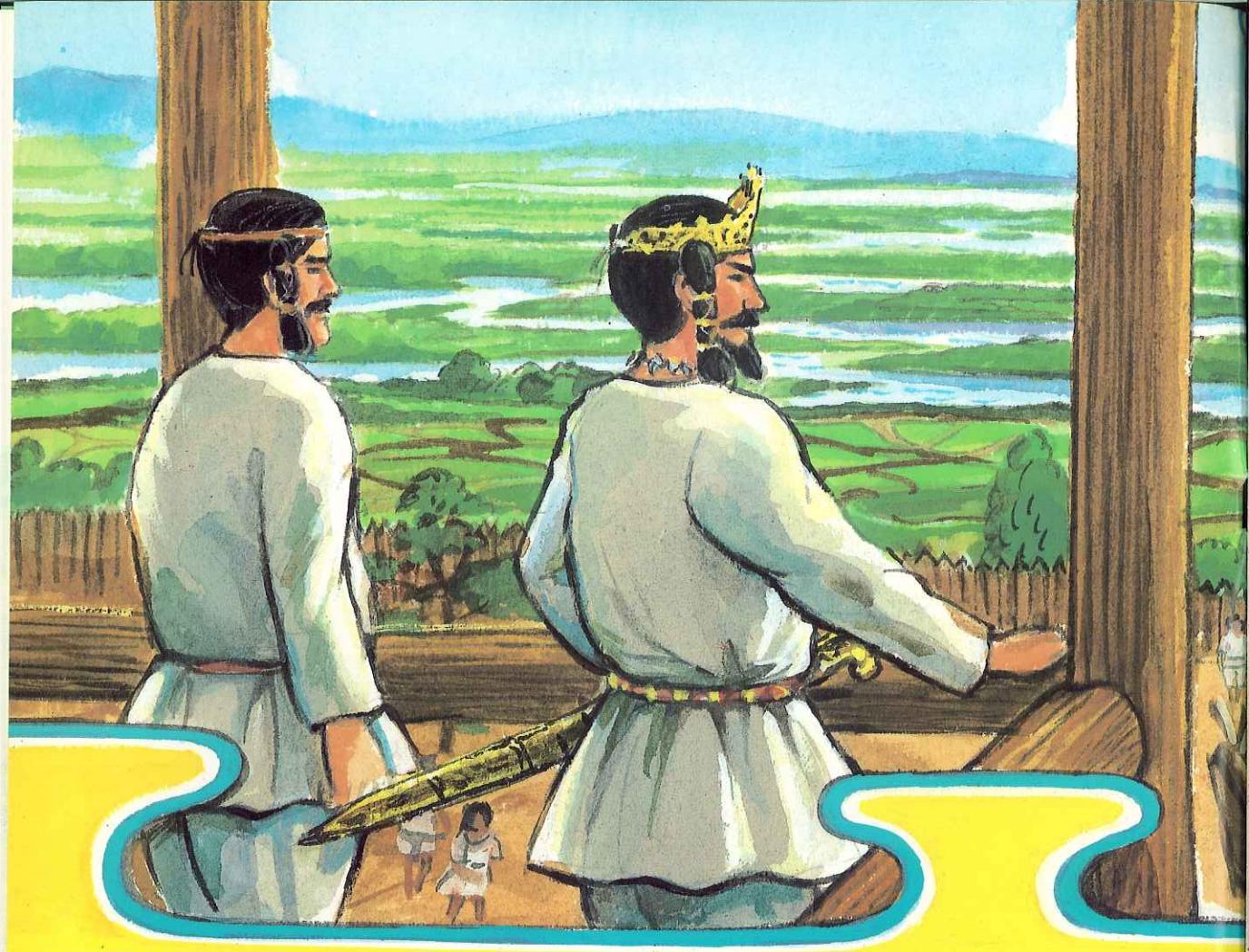


川の本

『川と人びとのくらし』—②水を治める者は天下を治める—



NO. 29
1990年夏の号



水を治める者は、天下を治める。

昔から稲作中心のくらしをしてきた人びとにと
って、水を運んでくれる川は、なによりも大切
でした。

しかし、この川もひとたび洪水をおこすと、田
畠も、家も、ときには人の命までうばう恐ろし
いあばれ川になります。

人びとは、洪水からくらしを守るために、知恵
をしづり、あばれ川を治める努力をつづけてき
たのです。

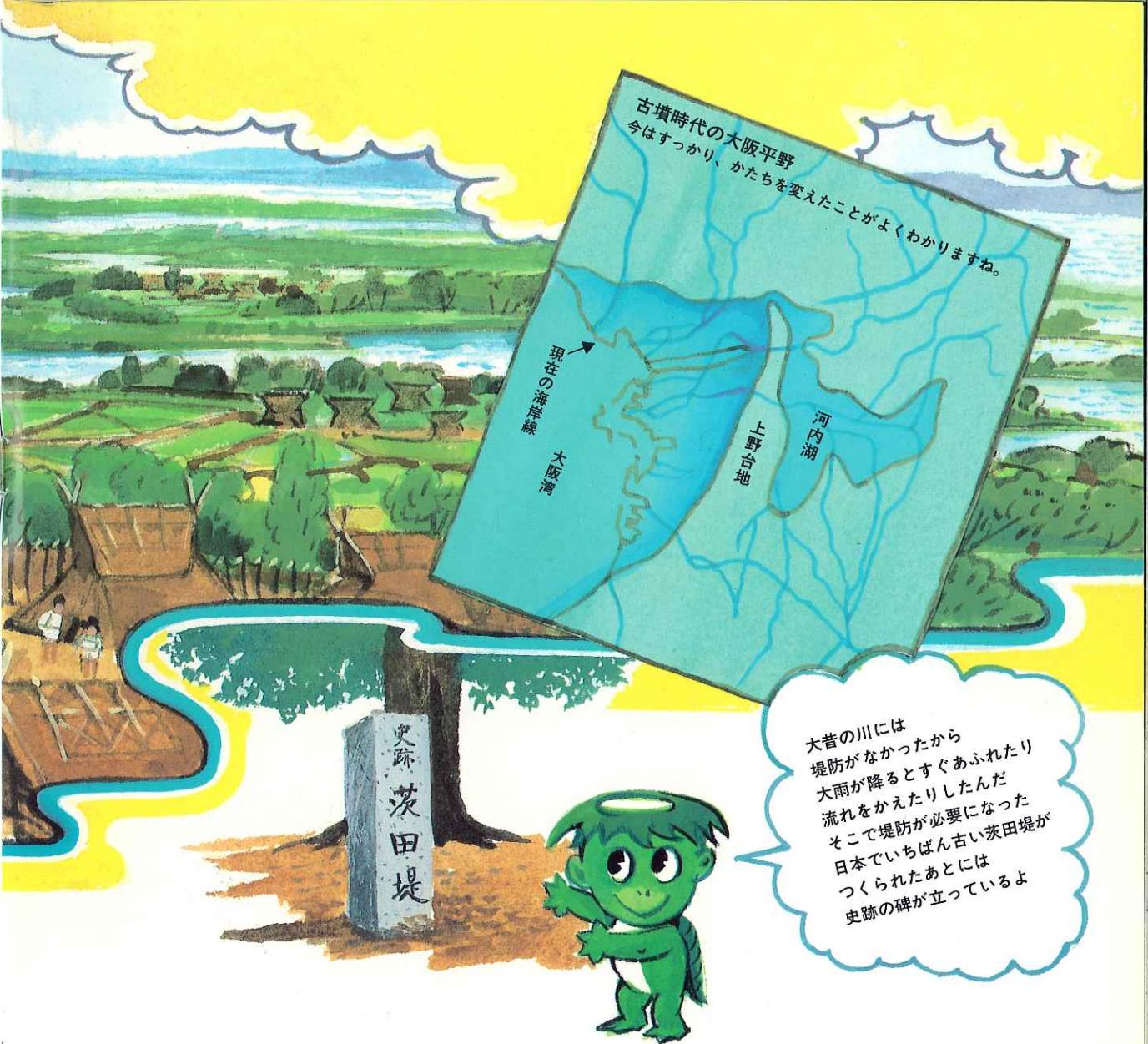
特に人の上に立つ王や武将にとって、川を治め
る（治水）ことは、国を治める上でも大へん重
要な課題でした。

まんだつみほりえ 茨田の堤となにわの堀江

今から約1600年も前、古墳時代の大坂平野に古代の
都がありました。そこには河内湖といわれる大きな
入江が広がっていました。

ときの大王（仁徳天皇）は、この地のことを「平野
は広いが、河口部はせまく水はうまく流れない。川
の水は乱れて流れているため田は少ない」と語つた
と、古い文献に記されています。

このようにこの地は、少しの雨でも河内湖はあふれ、
田や住居が水びたしになっていました。そこで大王
は、この地の田や住居を守るために、川の流れを整
え、堤防をきずいたり、新しく川を切り開いて河内
湖の水が海へ出やすくなることを考えました。



これが茨田の堤と、なにわの堀江の大工事で、日本の記録に残る治水工事の中で一番古いものです。

茨田の堤は、淀川と古川の間の地を洪水から守るためにつくられたといわれています。この工事は、川の分岐点の難工事でしたが、これによって生まれた茨田の地は、洪水から水田が守られ、お米のたくさんとれる地域になったと伝えられています。

なにわの堀江は、河内湖の水はけを良くする目的で掘られたものと考えられている人工の川です。大阪城の北側を流れる大川がその川だといわれています。

このように古代においても川を治め、水害をなくすために、人びとはたいへん苦労をしてきたのです。

水害に悩んだのは、この地ばかりではありません。京都を流れる鴨川なども古くから水害の多い川で、平安京には鴨川堤防を守る水防の専門の役人がおかれて、必死の努力が行われたそうですが、当時の力では、あばれ川となつた鴨川をしずめることができませんでした。

そのころの権力者であつた白河法皇は「朕(私)の意のままにならぬものはすごろくのさい (さいころ) と賀茂川(鴨川)の水と山法師」となげかれたと伝えられています。



甲府盆地を水害から守った 武田信玄

「堤が切れた、一刻のゆうよもならぬぞ、早く避難いたせえ」

急を告げる早馬が、下流の村むらを駆け抜けて行きます。天文11年（1542年）かまなし金無川みだいと御勅使川の合流点でぶつかり合った激流が大洪水となり、すさまじい勢で甲府盆地をひとりにしました。

この地を治めていた武田の新領主、信玄はまだ20代の青年でしたが、さすが名将といわれただけあって、深い考えと、新しいアイデアと実行力をもっていました。

「よいな皆の者、この甲府盆地ひとつ水から守れぬようでは、天下の笑い者ぞ。水を治め、領民のくらしを守つてこそ、領国の繁栄もあろうというものじゃ」そういうて、地形や川の流れなどを、しっかり調べさせ、長期計画で本格的な治水工事を始めました。特に氾濫の急所となる金無川と御勅使川の合流地点では、さまざまな新しい工夫がなされました。

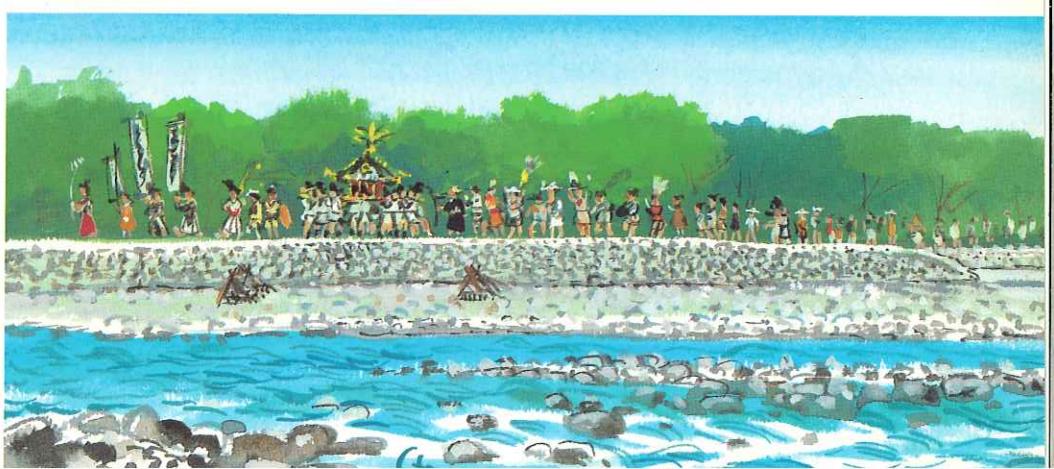
金無川の支川、御勅使川に将棋頭を設けて、主流をつけかえ、巨大な石をならべて金無川とうまく合流さ

せ、その流れをがんじょうな高岩にぶつけて水の勢を弱めました。そして高岩から下流に向かって、とぎれとぎれの堤防をつくりました。

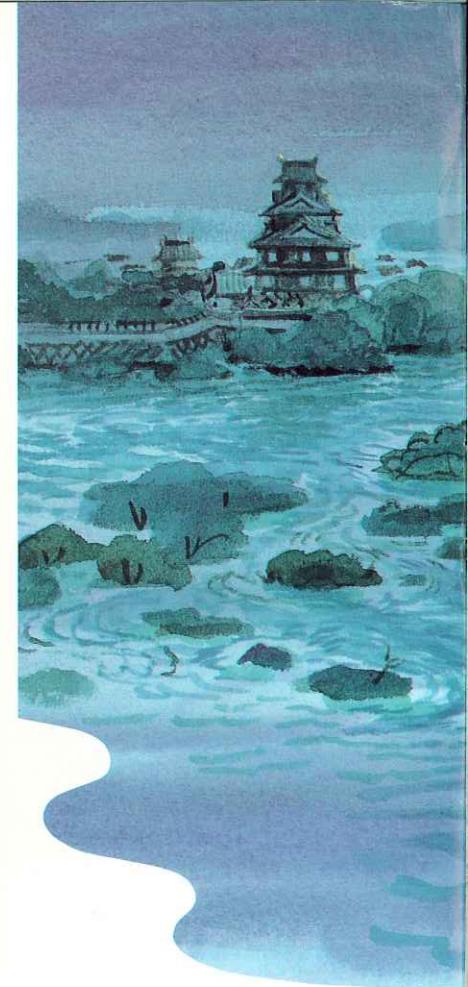
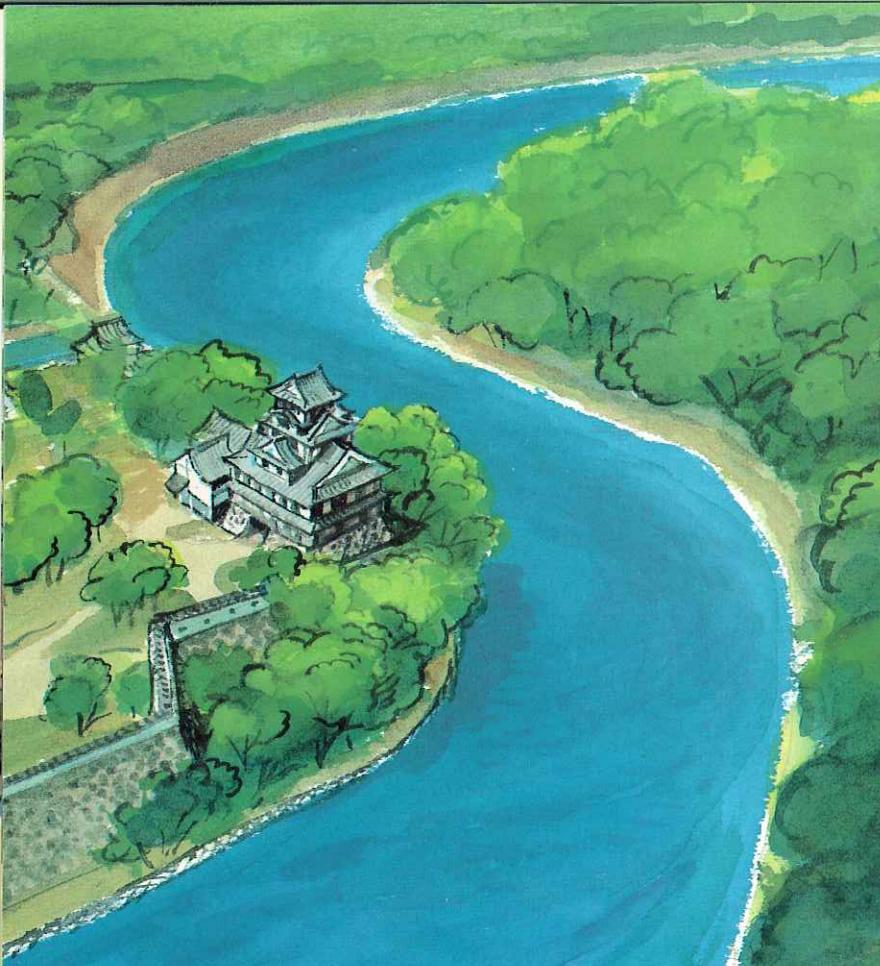
これが有名な信玄堤とよばれているもので、洪水の時、堤防と堤防の間からわざと水があふれ出るようにし、水が引いてくると、あふれ出ていた水がじょじょに川へもどるというしくみです。

堤防のまわりには、大きな石をならべたり、竹や木を巧みに配置しました。さらに聖牛と呼ばれる工作物などをあいて堤防を守りました。築いた堤防で守られた竜王河原に村をつくり、村人に新田をつくらせました。その人たちからは税をとらず、そのかわり、堤防の管理を命じました。洪水のときには、人びとは力を合わせて水防（堤防を守る）活動をしました。おかげで、新田の開発もすすみ、お米もたくさんとれるようになり、ひとびとのくらしも大へん安定したそうです。

この信玄堤は、江戸時代まで350年もの間、一度もきれることなく甲府の盆地を守りました。



信玄堤を造っている想像絵です。



くまざわばんざん ひやけんがわ
熊沢藩山と百間川

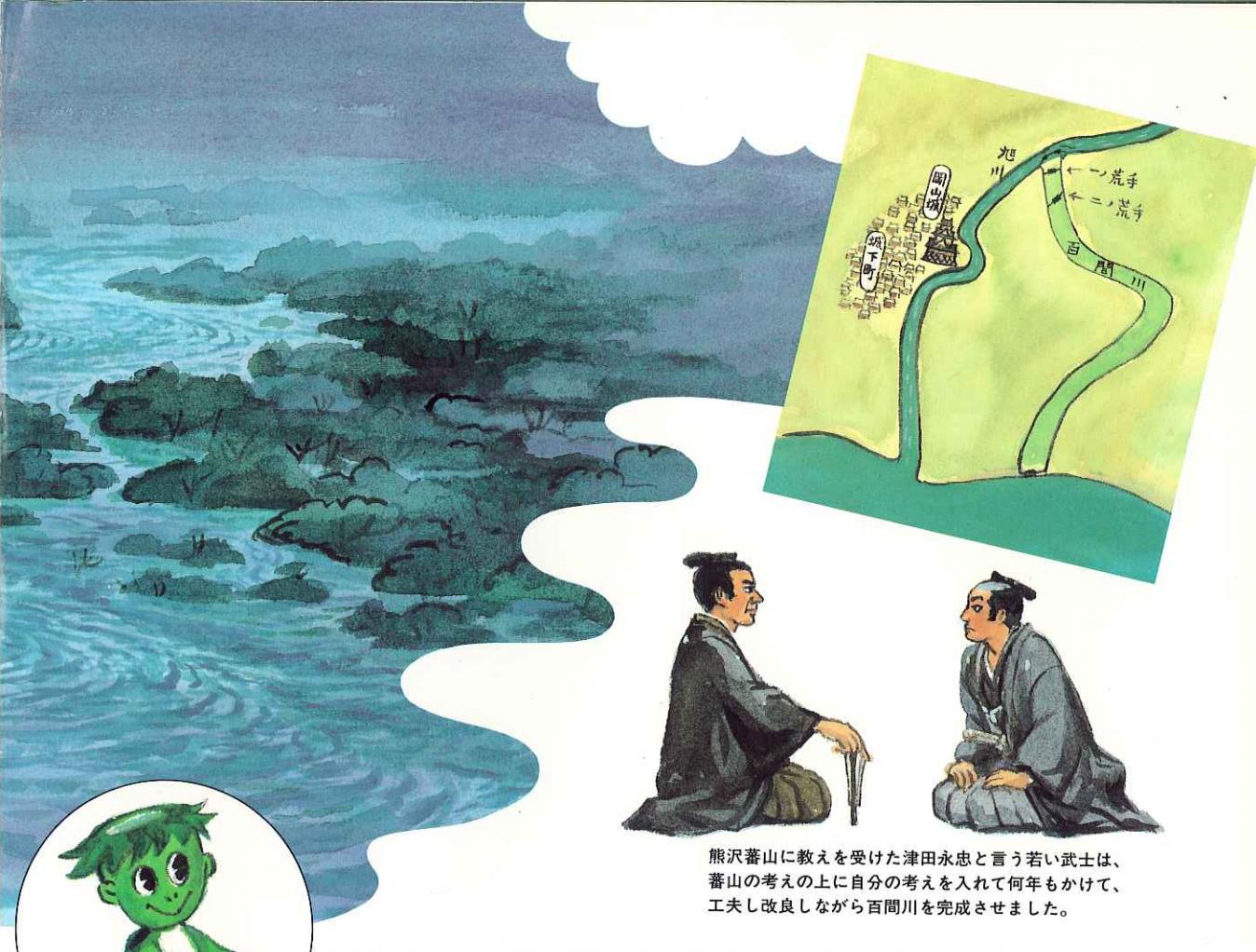
美しい旭川の流れに、とり囲まれて建つ岡山城。
一見理想的に築城されたように見えます。
しかし、これには問題がありました。

宇喜多秀家が、この城を建てるとき、あまりにも防備を考えすぎて、旭川の自然の流れを無理やりに曲げて川を造ったのです。そのため、流れをさまたげられた旭川は、毎年のように洪水がはんらんするようになり、岡山城を中心とした人たちを苦しめました。

池田光政が岡山の領主となつたころには、人口もふえ、新田も増やさねばならない状態でした。そんな承応3年（江戸時代1654年）旭川に大洪水があつたのです。ひでり続きで水に苦労したそのすぐあとのこと、城下の町も農家や水田も、濁流にのみこ

まれ、多くの人の命までうばわれました。この天災つづきにさすがの名君池田光政も、「われらの生涯で、もっとも大きな災害だ」となげいたといわれています。

その光政の家臣に、熊沢藩山と言う学者がいました。藩山は、もともと治水には深い考えを持った人でしたが、この大洪水を見てなんとか城下を救わねばならぬと「川除の法」（洪水を防ぐための具体的な治水方法）を考え出しました。中でも百間川と名づけられた放水路（水を海へ導くための人工の水路）は、旭川が増水してあふれそうになった時だけ越流堤をこえて水が流れこめるようになっています。ふだんは水のない空っぽの川の中で、農作物をつくっていました。百間川ができるからには、城下町の被害は以前にくらべてはるかに小さくてすみました。



今でも
大切な水防活動

昔と比べれば、今は大きな堤防に私たちは守られていますが、まだじゅうぶんとはいません。もし堤防が破られれば、その被害は昔と比べものにならないほど大きくなります。万一堤防にき裂が出来たり、川の水が堤防をこえそうな時など、その箇所を補強したりして防がなくてはなりません。

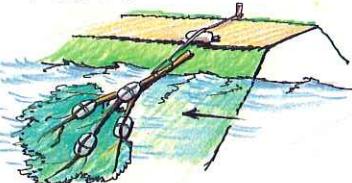
熊沢藩山に教えを受けた津田永忠と言う若い武士は、藩山の考えの上に自分の考えを入れて何年もかけて、工夫し改良しながら百間川を完成させました。

このような堤防を守る活動を、水防活動といいます。緊急のときなど水防団や消防団の人たちだけでなく、近所の住民もみんなで力を合わせた水防活動が必要です。

毎年、水防月間には水防演習が各地で行われています。機会があれば、ぜひ見学してください。

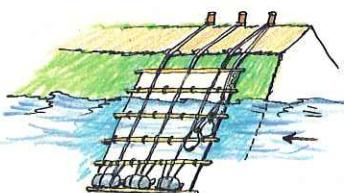
●水防工法のいろいろ

▶木流し◀



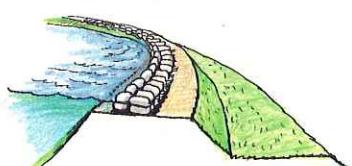
水の流れが急流となり、流水が激しく堤防を叩き、洗堀はじめた時
 • 流水をゆるやかにする。
 • 川表が崩れるのを防ぐ。
 • 川表の波欠けを防ぐ。
 (緩流部)

▶表蓆張り及び屏風返し◀



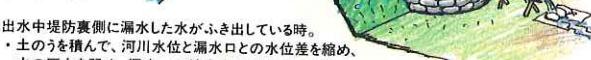
川表が崩れだしたり、堤防が透水はじめた時。
 • 川表が崩れるのを防ぐ。
 • 吸い込み口をふさぎ透水を防ぐ。

▶越水止め◀ (積土のう)



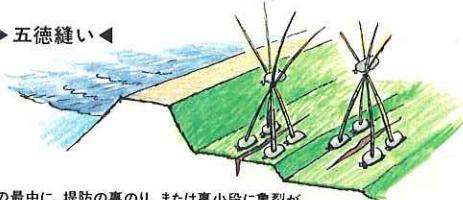
洪水により堤防が沈下したり、水が堤防を越えそうな時。
 • 堤防端に土のうを積み、越水を防ぐ。

▶月の輪◀



出水中堤防裏側に漏水した水がふき出している時。
 • 土のうを積んで、河川水位と漏水口との水位差を縮め、水の圧力を弱め、漏水口が拡大するのを防ぎ、堤防の決壊を未然に防ぐ。

▶五徳縫い◀



洪水の最中に、堤防の裏のり、または裏小段に亀裂が生じた場合。竹の弾力性を利用して、亀裂の拡大を防ぐ。

ふるさとには ふるさとの川がある

昔から、それぞれの川と深くむすびついて、私たちのくらしは発展することができたのです。ふるさとの川を大切にしたいですね。

まちがい絵さがし

日本のおもな河川

河川名	流域面積(km ²)	長さ(km)
利根川(とねかわ)	16840	322
石狩川(いしかりかわ)	14330	268
信濃川(しなのかわ)	11900	367
北上川(きたかみかわ)	10150	249
木曽川(きそかわ)	9100	227
十勝川(とかちかわ)	9010	156
淀川(よどかわ)	8240	75
阿賀野川(あがのがわ)	7710	210
最上川(もがみがわ)	7040	229
天塩川(てしおがわ)	5590	256
阿武隈川(あぶくまがわ)	5400	239
天竜川(てんりゅうがわ)	5090	213
雄物川(おもののかわ)	4710	133
米代川(よねしろがわ)	4100	136
富士川(ふじがわ)	3990	128

理科年表(平成2年)



1 2



D

1 2

河川愛護月間

7月1日→31日

8月1日は水の日です

まちがい絵さがし答 Aの1 Bの2 Cの1

河川環境管理財団は
みんなに愛される川であるように、こんな仕事をしています。

- *よりよい水辺のプランニング
- *楽しく安全に遊べる川づくり
- *川をきれいに、川を愛する心を育ぐくむ運動
- *未来の水辺を考えた調査や研究
- *せせらぎ・ふれあい基金

監修 建設省河川局



財團 法人 河川環境管理財団

(〒160) 東京都新宿区新宿5丁目17番5号
TEL. (03) 200-5677(代表)